

私は、北海道三笠市に生まれ、親の転勤で道内を転々として育ちました。絵を描いたり、ものを作ったりするのが好きだったので、土木の世界に興味を持ち、1997年(平成9年)に現在の会社に入社しました。入社当初は、農業土木、道路、河川の設計や神社の階段、学校のグラウンドなど多種多様な設計業務を経験してきましたが、ここ10年位は主に道路構造物の詳細設計や補修設計を担当しています。無我夢中で仕事に向き合ってきましたが、振り返ると達成感だけはあります。

入社当時の技術士といえば、まさに雲の上の存在でしたので、いつかは取得したいくらいに考えていましたが、業務を行う上でさらなる資質向上とクライアントからの信頼、プロポーザル業務の資格要件などから必要不可欠と考えるようになり、本気で技術士に挑戦しようと考えようになりました。

第1関門の筆記試験は3回目の挑戦でようやくパスすることができましたが、第2関門の口頭試験は、田舎者の私にとって別の恐怖もありました(東京、渋谷、飛行機、電車乗換え、お土産ミッション…)。また、当時は業務が立て込んでおり、試験の準備がほとんどできていなかったため、2日前に入った東京ではホテルに缶詰状態で勉強しました。作成したQ & Aを何とか頭に叩き込み、口頭試験に挑みました。厳しい試問もあり試験後は落ち込んでいましたが、なんとか合格することができました。ご指導してくださった先輩技術士や職場の方々には心より感謝致します。

今後は、総合監理部門や他科目挑戦など自己研鑽を継続し、仕事を通じて社会貢献できる技術者になりたいと思います。

成谷 浩之(なりや ひろゆき)

●建設部門
(鋼構造及びコンクリート)

勤務先

株式会社ドボク管理 札幌支店
設計部



→次号は、板倉瑞樹さん(建設部門)

札幌に勤務しております。佐藤公俊と申します。

私は、とにかく海釣りが好きで、一時期、東京に2年間ほど出向していたのですが、休日を利用してわざわざ北海道に釣りに帰る。という生活をするほど海釣りが好きでした。当然、関東でも釣りは出来るのですが、やはり北海道(特に積丹方面)が良かったのです。……おや?過去形になっていませんか?そうです、行く気はあるのですが、最近ではほとんど行っておりません。魚の活性が上がる日の出の時間帯を狙うというのがセオリーなのですが、単純に、“朝、起きられなくなった”のです。“早朝に起きる”という課題に対し、“早く寝る”という解決策を考案し実践もしましたが、やはり無理でした。夕方も釣れるので、夕方に行けば済むことかもしれませんが。

さて、技術士としての私の仕事は、主に動植物を保全しつつ公共事業を進めていくための方向性や具体策を考えて実践するというものです。文献などで対象種の生態を調べ、場合によっては飼育試験し、そこから各種の特徴を見つけて、条件に合った保全対策を検討するのですが、動植物の種類も多く、また、生態も複雑であり、理想的な保全対策が確立されていないことが多いです。新たに保全対策を考える、もしくは既存の保全技術を応用するというのが我々建設環境に係る技術士に求められる部分であり、腕の見せ所でもあります。ニホンザリガニが重要な種となった際、手探りながらも定量的な調査手法を考え、その調査結果から保全対策を検討し、実践しました。今でもそこにニホンザリガニが生息しており、いろいろ苦労した甲斐があったと感じています。

佐藤 公俊(さとう きみとし)

●建設部門(建設環境)

勤務先

株式会社ドーコン
環境事業本部 環境保全部



→次号は、岡本健太郎さん(建設部門)